



週報

■9月は、『基本的教育と識字率向上月間』

第1491回例会

2017年9月7日 Vol.32/No.9

■本日の例会／第1492回 平成29年9月14日(木)

- 会長・幹事報告
- 各委員会報告・各委員長
- ロータリー情報・研修プログラム・ロータリー情報・研修委員会 鳥山 浩 委員長
- 会員卓話・日高海雄 会員

【出席率状況報告】

- ・会員数……………54名
- ・出席者……………37名
- ・欠席者……………17名
- ・出席率……………68.52%
- ・8/24の修正出席率…83.33%

■会長挨拶



田中 寿 会長

今日は識字率月間という事です、日本は非常に識字率が高い事で評価されていると聞いておりますが、アメリカで発行されているワールドファクトブックによると99%、世界で28番目というランキングになっています。NO1はリヒテンシュタイン公国で、なんと2番目は北朝鮮だという事になっております。この北朝鮮の100%でNO2というのも何かしら首をかしげたいところです。そもそも識字率という基準は何かと調べてみると、1800年代江戸時代末期から明治初期の話になるわけですが、自署できるもの、自署というのは自身で名前を書ける人という事なのですが明治初期1800年後半の識字率はおおむね60%前後であったと書かれています。そして一般的な読み書きができるという事になると40数%だったと記されています。この様な状況でも当時の世界レベルで見て日本の識字率は高かったと言われておりますただ日本の場合最近よく言われているのは識字率の高低より、質の問題です。語彙力の不足や漢字の理解力が相当程度おちていることや、いわゆる若者言葉に代表される間違った日本語の使い方のほうが、問題が大きいのではないかなという提議をあちらこちらで聞きます。仕事柄、学生などのエントリーシートや志望動機を書かせたり添削したりすることがありますが、「私は」の(は)の部分が「私わ」になっていたりすることが多々見受けられたり、大丈夫という言葉の乱用・多用や例えば「美味しくなくない」「読まさせて頂きます」などという表現が当たり前のように使われている。これらはメール文化の影響が大きいと思われませんが、このような現象が多くみられる中で、国語の時間数の削減や、作文の時間が無くなるなど初等教育に疑問が浮かんできます。

■幹事報告



生駒俊明 幹事

☆国際ロータリー第2730地区ガバナーエレクト事務所開設のお知らせが来ています。
☆研修セミナー（ロータリー勉強会）開催について3年未満会員のためのセミナー、および一般会員のためのセミナーを開催することになりましたので皆様ぜひご参加下さい。
日時：平成29年10月5日（木）18：30～20：00
場所：ホテルマリックス 2階会議室
※勉強会終了後1階の「つば八」で懇親会を20：00～予定しています（費用お一人約3000円）
☆観月会（9月21日ホテルマリックスで18：30～）の参加者数が少ないので皆様ご多忙とは思いますがご参加下さい。
☆ローターアクト（藤村未歩様、山元史穂様）から台湾留学時のおみやげをいただきましたありがとうございました。

■米山奨学金授与式



ハナ・アカリ・アリフィン 様

■台湾留学報告



藤村未歩 様 山元史穂 様
はじめに宮崎中央RCの皆様、そして台湾龍山RCの皆様にご心より感謝申し上げます。このような機会を私たちに与えてくださり、本当にありがとうございました。貴重な経験を多くすることができ、これから生きていくうえで大切なことも多く学ぶことができました。私は6年前、同じプログラムで台湾に行かせていただき

ました。まだ中学生であった私にとって初めての台湾は、とても刺激的なものでした。台湾の社会に大きく貢献していく大人たちをそばで見て、自分もいつかこうなりたい、地元で貢献できる仕事をしていきたいと強く思うようになりました。この経験を通し目標実現のため、高校では英語を中心に学び、大学も語学を中心に学ぶことができる宮崎公立大学に進学しました。大学入学後も、宮崎中央RCの皆様と再びつながりを持つことができたこと、そして同じプログラムで台湾に2回も行かせていただけたことに感謝しております。今回の台湾では、前回の時よりも将来のことについてより深く考えることができる機会を多くいただきました。必要なスキルをまずは身に付けること、努力をすること、そして感謝の気持ちを常に忘れずに持つことが働くうえで大事だということを龍山RCの方とお話した際に教えていただきました。また、様々な観光地に行かせていただく中で、かつての日本と台湾の関係、そして今の日本と台湾の関係について改めて深く考えさせられる機会もあり、これからグローバルな環境で仕事をするためにも必要なことを多く学ぶことができました。今、私は大学のゼミで中国茶文化について勉強をしています。龍山RCの方々のおかげで台湾の茶文化に触れさせていただき、貴重な学びや実践を多く経験させていただくこともできました。台湾のお茶に関する作法は日本の茶道にも少し通じると感じるものがあり、中国茶文化にさらに興味が湧き、茶道とともに知識や作法をもっと身に付けていきたいという思いが生まれました。台湾での12日間を振り返り、前回の経験が今の自分に繋がっていると実感することができました。あの時に台湾へ行く機会を与えていただいたからこそ今の自分がいるのだと思います。今回のプログラムを通して台湾文化や語学、専攻している中国茶文化に関係することなどを実際に経験することができ、今まで以上に理解が深まりました。この経験を活かし、目標に向かって更に努力を続けていこうと思います。そして将来、一人でも多くの人の役に立てるよう、さらには社会に貢献できる仕事ができるように日々頑張ります。ありがとうございました。

■ゲスト卓話



司法修習生 宮本広志 様
1 司法修習生の宮本広志と申します。江島先生、長友春雄社長からお声かけていただいたことがき

かけで、今回、卓話をさせていただくことになりました。司法修習生という未熟な立場にある私ですが、この場に立たせていただくこと自体、恐縮しておりますが、①弁護士を目指すきっかけ、②勉強時代、③司法修習生の生活と今後について、話をさせていただきたいと思います。

2 弁護士を志そうと思ったきっかけは、中学3年の時の担任の教師から1年間ほど嫌がらせを受けた事にあります。その後、教師の軽はずみな言葉をきっかけにいじめが起き、いじめられた子どもが自殺をしたというニュースをみました。そのとき、対抗することができないような社会的に弱い立場にある人の存在に気づきました。そこから、そうした広く困っている人たちの役に立てるようなことをしたいと思うようになり、これが、私が弁護士を志したきっかけであります。こうした、過去や動機が、私が司法試験を乗り越える上で、精神的な支えとなりました。

3 熊本大学法科大学院を出たのですが、思うような勉強の成果が出ず、司法試験の勉強は、親の協力を得て宮崎の実家で勉強を開始しました。そして、3回目の挑戦でようやく司法試験に合格することができました。司法試験に合格できた要因は、①強い動機があったこと、②周囲の方々からサポート、③試行錯誤をして自分なりの勉強方法が確立できたこと、にあると思います。

4 そして、現在、司法修習をしております。実際に、実務での厳しい世界をみると、私自身の未熟さを痛感するとともに、その場に居る喜びを感じる日々を送っています。

5 今、振り返りますと、ここまでくることができたのは、様々な人達の支えがあるからだと思います。そうした方々への感謝の気持ちを忘れずにまた、弁護士を目指した志を忘れずにこれから努力して、社会に貢献して参りたいと考えております。この度は、このような機会を設けていただき貴重な経験をすることができました。ありがとうございました。

出席委員会報告

黒木陽子 副委員長

◆8/24メイクアップ者名 (敬称略)

押川紘一郎、黒木陽子、田中 寿、湯浅敏幸

ハッピーボックス (敬称略)

●田島直也…誕生祝、有り難うございます。

発行/ 宮崎中央ロータリークラブ

●事務局 〒880-0804 宮崎市宮田町10-25 宮田町ビル TEL.0985-22-6767 FAX.0985-22-0288
●例会場 〒880-8545 宮崎市山崎町浜山 シーガイアコンベンションセンター TEL.0985-21-1155(毎週木曜 12:30~13:30)
会長/田中 寿 副会長/山川 力 幹事/生駒俊明